附属小学校と大学との連携を考える

細　水　保　宏※

筑波大学には11の附属学校があるが，普通附属の小学校は本校１校である。したがって，大学との連携という観点から見ても，附属小学校の役目は大きいと考えている。

まず，簡単に筑波大学附属小学校の特色を紹介してみる。筑波というと茨城をイメージする方も多いと思うが，東京の文京区茗荷谷，東京教育大学の跡地にある，緑に囲まれた学校である。

１．筑波大学附属小学校の特色と使命

◆小学校で教科担任制

筑波大学附属小学校の特色の一つとして，「教科担任制」が挙げられる。

小学校の授業は「学級担任制」，中学校から「教科担任制」が常識とされてきた。しかし，最近，教員の得意分野を活かして小学校でも教科担任制をとの動きがみられ出した。本校では，昔から「教科担任制」を導入し，その成果を上げてきたので，「小学校でも教科担任制」が広がっていくときに，役立つ情報を数多く提供できると考えている。

ところで，学級経営が授業の根幹をなしていることは言うまでもない。しかし，その学級経営，学級づくりをどこで行っていくかというと，あまり議論されていない。道徳，特別活動，学校生活全般はもちろんであるが，各教科の中で行っていくのである。教科担任制はその名の通り，教科の中で担任として学級づくりを行っている。したがって，学級担任は，教科担任にクラスを乗っ取られないように切磋琢磨していく，それが要求されている学校でもある。本校では，「組」という代わりに「部」という名称を使っている。これも特色の１つである。昔１部は男子クラス，２部は男女クラス，…といった具合にクラスに特色を持たせて実験していた名残である。今はどの部も平等にクラス分けされている。学年４クラス，学校で24クラス，全校児童960名の小学校である。

※筑波大学附属小学校　副校長

◆「『独創』の教育」３年目に突入

本校は，次の３つの拠点構想を持って，研究を推し進めている。

○先導的教育研究

本校の使命として，５年後，10年後の教育を常に考えていきながら，新しい学習指導要領の作成に参考になる資料を提供することがある。その一つとして，附属小・中・高で一貫カリキュラム開発研究を行っている。

また，日本中の先生方に日々の授業に必要な指導のポイントを提供することも使命の一つである。研究発表会の開催や，各都道府県で開催される研究会へ出前授業，講演などで参加し，研究の成果を発信している。

現在の研究テーマは「『独創』の教育」。４年計画の３年目に突入した。

「『独創』の教育」を

「仲間との創造的な体験を通して，自分らしく，知恵やものを新しく生み出したり，すでにあるものに新たな価値を付け加えたりする能力や態度を育てる教育活動」

と定義し，21世紀を力強く生き抜く子どもを育てようと研究している。

「独創性」の観点から授業を見直してみると，子どもたちの発想の豊かさに驚かされる。「独創性」を発揮している子どもたちの姿を探したり関わったりしていく過程自身が楽しく感じられる。教科・領域の本質に迫っていく子どもたちの姿に感動する。したがって，日々の授業が少しずつ変わってきていることに驚いている。その成果を，毎年，６月と２月に公開授業・研究発表会という形で開催し，提案し続けている。(2010年度は６月と２月で約6000人参加者があった。)[1]

○教師教育研究

附属なのに教育実習生を持たない。これは，大学が小学校の教員養成機関でないためであるが，代わりに全国からの教員研修を受け入れている。１日の研修から１年間の長期研修まで，100名以上の研修を受け入れている。また，教員免許状更新講習，初任者研修・10年次研修機関の一端を担っている。教員免許状更新講習では，２日間で定員を大きく越える200名弱の受講者を受け入れている。来年度は今年度以上の受講者が見込まれ，受講参加コースを２倍にして受け入れる予定になっている。

○国際教育研究

JICA（JICA 筑波，JICA 中国），筑波 CRICED と連携して，国際的な交流と貢

献を行ってきている。昨年度は，アメリカ，韓国，カンボジア，メキシコ，ジャマイカ，ミクロネシア，スリランカ，ホンジュラス，エルサルバドル，グアテマラ，南アフリカ他多くの海外からの現職教員関係（海外），研修生を受け入れた。また，グアテマラ，ホンジュラス，メキシコ，カンボジア，マレーシア，チリなどへ教員の派遣も積極的に行った。

２．大学との連携

本題の「大学と附属学校の連携を考える」であるが，まず，現在取り組んでいるものから紹介したい。

◆附属学校教育局プロジェクト研究

小・中・高で一貫カリキュラム開発研究を行っている。その研究に関わって，先導的教育拠点構想推進事業として2010年10月の１週間，附属学校教育局担当者と附属学校教員総勢８名で米国シカゴ大学附属実験学校等の視察を行い，その報告会を2011年２月に行った(2)。

◆四校研での小・中・高で一貫カリキュラム開発研究

大塚地区３附属（小・中・高）の教員で始まった研究会（三校研）から大学も含めた四校研とへと発展し，2002年度より「四校研」として活動を開始した。この四校研でも2004年度から小・中・高で一貫カリキュラム開発を行っている。各教科・領域毎に授業研究などで研究協議を重ね，中間まとめを行い冊子で発信した(3)。

◆教員免許状更新講習

先にも述べたが，今年度定員を大きく越える200名弱の受講者を受け入れた。「初等教育の授業と理論を学ぶ」として，実際に授業を行い，その授業をもとにこれからの課題と展望を考える講座を設定している。来年度は，８月に２回，国語，社会，算数，理科，図工，体育の６教科12のコースを設定し，定員を400名として計画している。

◆小学校教員養成課程設置に関する協力

筑波大学が小学校の教員養成課程設置を検討している。教員養成のための講義，教育実習等，協力する体制の準備を行っている。

◆国際教育研究

JICA（JICA 筑波，JICA 中国），筑波 CRICED と連携して，国際的な交流と貢献を行ってきていることは前に述べたとおりであるが，ここ数年の実績から，交

流も深くなってきている。

例えば，韓国との交流であるが，毎年本校職員が韓国に行き，授業研究を行っている。今年度は算数，理科，音楽，体育の教員が授業と講演を行った。２会場で，延べ400名近くの参加者があった。また，２月には毎年韓国から40名近い教員の視察を受け入れている。

JICA（JICA 筑波，JICA 中国），筑波 CRICED との連携も益々深まり，来年度も２月と６月に中米，中東の方々の参観，イスラエル，アメリカ，韓国，カンボジアへの教員の派遣が決まっている。また APEC 関係では平成23年２月，140名の参観を受け入れた。このように，国際教育研修の拠点校としての活動も益々広がっている。

３．大学との連携を考える

研究・教育において，大学との連携・協力が今まで以上に求められている。本学でも「大学・附属学校連携委員会」が立ち上げられ，この課題に取り組んできている。先に述べてきた各分野で，より一層大学との連携を密なものにしていくことが大切となってくるのは間違いない。

附属小学校としては，次の点から取り組んでいきたい。

◇附属学校教育局プロジェクト研究

◇四校研での小・中・高で一貫カリキュラム開発研究

◇教員免許状更新講習

◇国際教育研究

◇「『独創』の教育」の４年次研究

また，特に次の点からは新たな研究が必要であるので，大学・附属学校教育局との連携をより密にしていきたい。

◇附属学校教育局プロジェクト研究と，四校研での小・中・高で一貫カリキュラム開発研究との連携

◇小学校教員養成課程設置に関する協力

◇35人学級に対する対応

と同時に，新しい連携・協力について模索し，実践を積極的に試みていきたい。

註

（1） 筑波大学附属小学校研究紀要・第65,66集参照

（2） 米国シカゴ大学附属実験学校等の視察・報告書 2011（筑波大学附属学校教育局）

（3） 四校研活動報告（平成16～21年度）中間まとめ――筑波大学大塚プランをめざして――2010年 4 月